

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／資産複合
信託期間	2018年9月26日から2022年11月11日までです。
運用方針	この投資信託は、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行います。 ①主として、MFSメリディアン・ファンズ・ブルーデント・キャピタル・ファンドへの投資を通じて日本を含む世界の株式および債券ならびに現金(同等物を含みます。)等に実質的な投資を行います。 ②原則として、MFSメリディアン・ファンズ・ブルーデント・キャピタル・ファンドへの投資比率を高位に維持します。 ③資金動向、市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。
主要投資対象	次の有価証券を主要投資対象とします。 ①MFSメリディアン・ファンズ・ブルーデント・キャピタル・ファンドの外国投資証券 (ZH1円シェア・クラス) ②FOFs用短期金融資産ファンド (適格機関投資家専用) の受益証券
組入制限	①投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 ②外貨建資産への直接投資は行いません。 ③デリバティブの直接利用は行いません。 ④株式への直接投資は行いません。
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。 ①分配対象額は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等の合計額とします。 ②分配金額については、上記①の範囲内で委託者が基準価額水準・市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合や委託者の判断によって分配を行わないことがあります。 ③収益分配にあてず信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて元本と同一の運用を行います。

MFSブルーデント・ファンド (米ドル売り円買い)

償還 運用報告書(全体版)

第5期(償還日:2022年11月11日)

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

「MFSブルーデント・ファンド(米ドル売り円買い)」は、2022年11月11日をもちまして繰上償還いたしました。

ここに、設定以来の運用状況と償還内容をご報告いたしますとともに、受益者のみなさまのご愛顧に対しまして、重ねてお礼申し上げます。



MFSインベストメント・マネジメント株式会社

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル

<https://www.mfs.com/japan>

お問い合わせ先<営業部>

TEL. 03-5510-8550

受付時間:営業日の午前9時~午後5時

○設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額		投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分 込 配 金	騰 落 中 率		
(設定日) 2018年9月26日	円 銭 10,000	円 —	% —	% —	百万円 1
1期(2019年6月17日)	10,250	0	2.5	98.9	1,010
2期(2020年6月15日)	10,888	0	6.2	99.8	1,560
3期(2021年6月15日)	11,801	0	8.4	99.9	1,758
4期(2022年6月15日)	10,242	0	△13.2	99.9	2,560
(償還時) 5期(2022年11月11日)	(償還価額) 14,148.10	—	38.1	—	0.302785

(注1) 設定日の基準価額は、設定時の価額です。

(注2) 設定日の純資産は、設定元本を表示しております。

(注3) 当ファンドでは、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額		投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落	率	
(期 首) 2022年6月15日	円 銭 10,242		% —	% 99.9
6月末	10,291		0.5	99.9
7月末	12,781		24.8	3,278.5
8月末	14,866		45.1	103.0
9月末	13,843		35.2	103.3
10月末	14,170		38.4	—
(償還時) 2022年11月11日	(償還価額) 14,148.10		38.1	—

(注1) 騰落率は期首比です。

(注2) 当ファンドでは、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

◆設定以来の運用経過

設定以来の基準価額等の推移



(注1) 当ファンドでは、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

(注2) 分配金の支払実績がないため、分配金再投資基準価額の推移は表示していません。

■基準価額・騰落率

設定日：10,000円

期末(償還日)：14,148円10銭 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率：41.5% (分配金(税込み)込み)

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

<設定以来の基準価額の主な変動要因>

通期(2018年9月26日～2022年11月11日)

当ファンドは、MFSメリディアン・ファンズ・ブルーデント・キャピタル・ファンド(以下、主要投資対象ファンドという場合があります。)の円建て外国投資証券(ZH1円シェア・クラス)の組み入れを高位に保つことにより、実質的に日本を含む世界の株式および債券ならびに現金(同等物を含みます。)に投資し、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行いました。設定来、主要投資対象ファンドにおいて、運用方針に基づき、株式のウェイトを低めにする保守的な運用を行うとともに、米ドル売り円買いの為替取引を行いました。

設定当初に比べ、主要投資対象ファンドの価格は下落しましたが、第5期中の大口解約の影響による基準価額変動が大きくプラスとなり、その結果、設定来で基準価額は上昇しました。

主要投資対象ファンドの運用による基準価額の変動要因は以下の通りです。

・基準価額の上昇要因

株式銘柄のうち、コストコホールセール、ケイデンス・デザイン・システムズなどを保有していたことが基準価額にプラスに影響しました。

・基準価額の下落要因

株式銘柄のうち、LEGイモビリエン、ヴォノヴィアなどを保有していたことが基準価額にマイナスに影響しました。米国の金利が上昇したため、米国の短期国債や社債の保有が全体として基準価額にマイナスに影響しました。

米ドル/円相場が円安ドル高となったことから、米ドル売り円買いの為替取引が基準価額にマイナスに影響しました。

<設定以来の投資環境>

通期（2018年9月26日～2022年11月11日）

グローバル株式市場は、大幅に上昇しました。設定当初は米中貿易摩擦激化や世界景気悪化への懸念を背景に下落基調で始まりまし。2019年以降は堅調な企業決算や米中通商協議の進展、主要中央銀行のハト派的な金融政策を材料に、2020年2月中旬まで上昇基調となりました。2月下旬に、新型コロナウイルス感染症のパンデミックと感染拡大防止のための封鎖措置に伴う経済活動収縮によって世界景気後退懸念が強まり、市場がパニックに陥り急落しました。その後、米国をはじめ各国政府、中央銀行による景気支援策や、新型コロナウイルスのワクチン接種の進展などを受けた経済活動再開への期待などから上昇基調となりました。2021年10月以降は、インフレ懸念を背景とした欧米の金融緩和策見直しの動きやロシアのウクライナ侵攻などによる地政学的リスクの高まりから軟調な動きとなりましたが、設定当初を大幅に上回る水準で期末を迎えました。

グローバル債券市場では、世界的に金利が上昇しました。米10年債利回りは設定当初の3%近辺の水準から米中貿易摩擦激化や新型コロナウイルス感染拡大による緊急利下げなどを受けて、2020年3月に0.5%台まで低下し2020年内は低位で推移しました。2021年に入ると、経済活動再開を背景としたインフレ懸念から1%台半ばまで上昇しました。2022年には、ロシアのウクライナ侵攻による供給不足を受けてインフレが加速したことも手伝って急上昇し、期末には3.8%台となりました。独10年債利回りは設定当初に0.5%前後で始まりましたが、域内経済への懸念から2020年3月に-0.8%台まで低下し、2022年の年明けまでマイナス圏で推移しました。しかし、ウクライナ情勢悪化を背景にインフレが進行し欧州中央銀行(ECB)が利上げを開始したことなどから上昇基調となり、期末には2.1%台半ばとなりました。

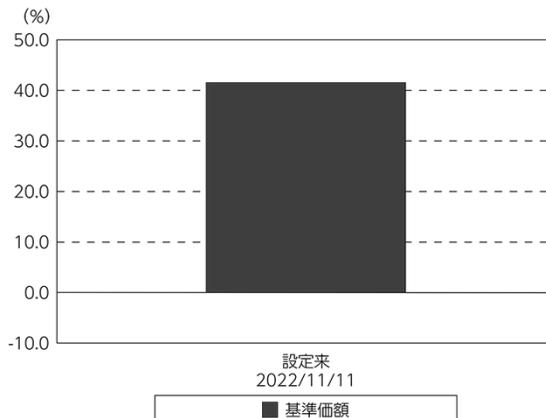
為替市場では、米ドル/円相場は設定当初113円近辺で始まり、2021年末まで105円～115円の間で推移していましたが、2022年に入り、米連邦準備制度理事会(FRB)が利上げペースを加速させたことを受けて、10月中旬には150円台まで上昇しました。その後は、日本政府・日銀による円買い介入が行われたことなどから円高方向に戻し、141円台で期を終えました。ユーロ/円相場は設定当初の132円台から、英国の欧州連合(EU)離脱や新型コロナウイルス感染拡大を受けたリスク回避の動きを背景に円高方向に推移し、2020年5月には114円台となりました。その後、EU復興基金創設や欧州の景気回復への期待などから、2021年6月には134円近辺までユーロが持ち直しました。2022年に入ると、ECBのタカ派的動きや米ドル高の影響から一段の円安が進み、144円台で期を終えました。

<ポートフォリオの状況>

設定以来、主要投資対象MFSメリディアン・ファンズ・ブルーデント・キャピタル・ファンドの円建て外国投資証券(ZH1円シェア・クラス)の組み入れを高位に保ちました。償還に備えて、2022年10月27日以降は保有ファンドをすべて売却して短期金融資産での運用としました。

<ベンチマークとの差異について>

当ファンドでは、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。



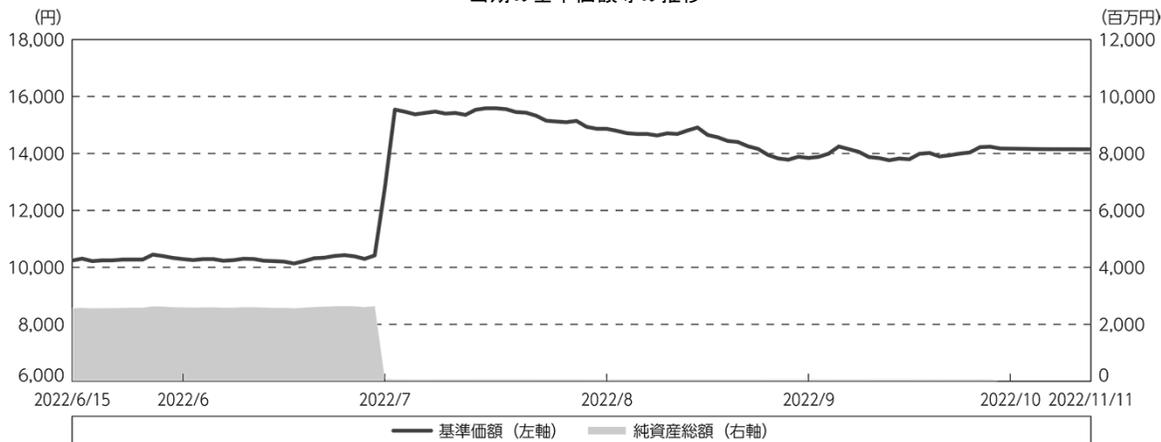
(注) 基準価額の騰落率は分配金(税込み)込みです。

分配金

設定以来、お支払いした分配金はございません。

◆運用経過

当期の基準価額等の推移



(注) 当ファンドでは、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

■基準価額・騰落率

期 首：10,242円

期末(償還日)：14,148円10銭 (既払分配金(税込み)：-円)

騰 落 率： 38.1% (分配金(税込み)込み)

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

<基準価額の主な変動要因>

第5期(2022年6月16日～2022年11月11日)

当ファンドは、MFSメリディアン・ファンズープルーデント・キャピタル・ファンド(以下、主要投資対象ファンドという場合があります。)の円建て外国投資証券(ZH1円シェア・クラス)の組み入れを高位に保つことにより、実質的に日本を含む世界の株式および債券ならびに現金(同等物を含みます。)に投資し、信託財産の長期的な成長を目指して運用を行いました。当期は、主要投資対象ファンドにおいて、運用方針に基づき、株式のウェイトを低めにする保守的な運用を行うとともに、米ドル売り円買いの為替取引を行いました。

当期の主要投資対象ファンドの価格は下落しましたが、期中の大口解約の影響による基準価額変動が大きくプラスとなり、その結果、当期の基準価額は上昇しました。

主要投資対象ファンドの運用による基準価額の変動要因は以下の通りです。

・基準価額の上昇要因

株式銘柄のうち、セイジ・グループ、ヴォルタース・クルーワーなどを保有していたことが基準価額にプラスに影響しました。

・基準価額の下落要因

株式銘柄のうち、LEGイモビリエン、アルファベットなどを保有していたことが基準価額にマイナスに影響しました。米国の金利が上昇したため、米国の短期国債や社債の保有が全体として基準価額にマイナスに影響しました。

米ドル/円相場が円安ドル高となったことから、米ドル売り円買いの為替取引が基準価額にマイナスに影響しました。

<投資環境>

第5期（2022年6月16日～2022年11月11日）

当期のグローバル株式市場は、上昇しました。期初から2022年8月半ばまでは、米国のインフレ鈍化観測を受けた米連邦準備制度理事会（FRB）の利上げペース鈍化への期待に加え、米大手ハイテク銘柄を中心とした良好な企業決算が好感されたことから堅調な動きとなりました。しかし、米消費者物価指数（CPI）の伸びが市場予想を上回るなどインフレが収まらず、主要中央銀行の一段の利上げが世界的な景気後退を招くとの懸念から、9月後半から10月にかけて下落し、期初の水準を割り込みました。その後は、企業の好決算、主要中央銀行の利上げペース緩和期待から上昇基調となり、期首比プラス圏を回復して期末を迎えました。当期のMSCIワールド・インデックス（税引き前配当込み・現地通貨ベース）の騰落率は+5.77%となりました。

当期のグローバル債券市場では、世界的に金利が上昇しました。米10年債利回りは、期初の3.3%近辺から8月初めまでに2.5%台半ばに低下したあと、堅調な雇用統計やFRBがインフレ抑制に向けた一段の利上げの必要性を示しているとの見方などから期末には3.8%台に上昇しました。独10年債利回りは期初に1.6%台半ばではじまり、欧州中央銀行（ECB）が11年ぶりの大幅利上げを実施したことやユーロ圏消費者物価指数（HICP）の高止まり、英国の経済政策における混乱などから上昇し、期末には2.1%台半ばとなりました。

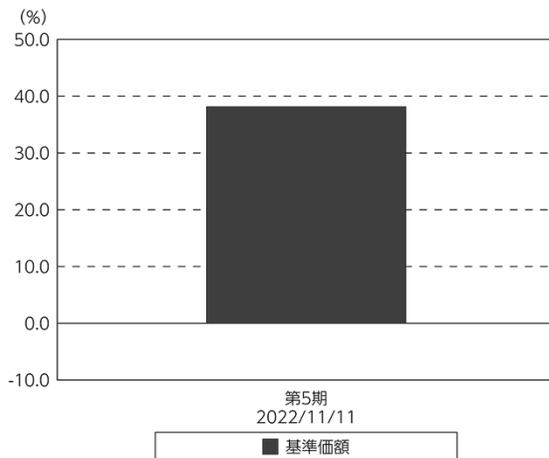
為替市場では、米ドル／円相場は期初から8月末まで135円近辺で推移していましたが、9月に入りFRBが一段の利上げを示唆したことを受けて円安が進み、10月中旬には150円台となりました。その後は、日本政府・日銀による円買い介入の影響もあって円高方向に進み、141円台で期を終えました。ユーロ／円相場は期初に140円近辺で始まり、ECBの利上げなどを受けて期末にかけて円安基調となり、144円近辺で期を終えました。

<ポートフォリオの状況>

期を通じて、主要投資対象MFSメリディアン・ファンズブルーデント・キャピタル・ファンドの円建て外国投資証券（ZH1円シェア・クラス）の組み入れを高位に保ちました。償還に備えて、2022年10月27日以降は保有ファンドをすべて売却して短期金融資産での運用としました。

<ベンチマークとの差異について>

当ファンドでは、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。



受益者のみなさまにおかれましては、これまで当ファンドをご愛顧いただき、誠にありがとうございました。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2022年6月16日～2022年11月11日)

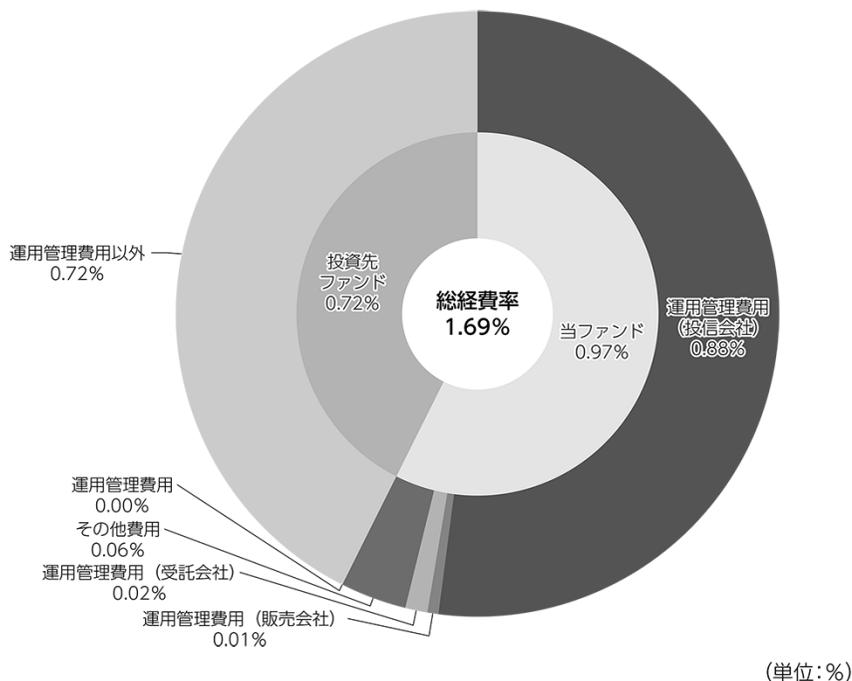
項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 49	% 0.373	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(47)	(0.359)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(1)	(0.004)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.009)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	3	0.026	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監 査 費 用 等)	(3)	(0.026)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用（監査費用）および法定書類の作成・印刷等費用
合 計	52	0.399	
期中の平均基準価額は、13,190円です。			

- (注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。
- (注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注4) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。
- (注5) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.69%です。



総経費率(①+②+③)	1.69
①当ファンドの費用の比率	0.97
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.00
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.72

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 四捨五入の影響で1万口当たりの費用明細の比率と差異が生じる場合があります。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドの主要投資対象である外国投資証券および国内投資信託受益証券です。

(注) 投資先ファンドの運用管理費用以外の比率は、外国投資証券のファンド管理費用の上限比率および国内投資信託受益証券の運用管理費用以外の比率の合計です。

(注) 当ファンドの費用は、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2022年6月16日～2022年11月11日)

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)	—	—	10,081	9
	MFSメリディアン・ファンズブルーデント・キャピタル・ファンド(ZH1円シェア・クラス)	4,088	43,514	245,675	2,669,814
	合計	4,088	43,514	255,756	2,669,824

(注1) 金額は受け渡し代金。

(注2) 単位未満は切り捨て。

○利害関係人との取引状況等

(2022年6月16日～2022年11月11日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年11月11日現在)

2022年11月11日現在、有価証券等の組入れはございません。

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘柄	柄	期首(前期末)	
		口数	口数
FOFs用短期金融資産ファンド(適格機関投資家専用)			10,081
MFSメリディアン・ファンズブルーデント・キャピタル・ファンド(ZH1円シェア・クラス)			241,586
合計			251,667

(注1) 単位未満は切り捨て。

○投資信託財産の構成

(2022年11月11日現在)

項目	償還時	
	評価額	比率
コール・ローン等、その他	千円 3,484	% 100.0
投資信託財産総額	3,484	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨て。

○資産、負債、元本及び償還価額の状況 (2022年11月11日現在)

項 目	償 還 時
	円
(A) 資産	3,484,874
コール・ローン等	3,484,874
(B) 負債	3,182,089
未払信託報酬	3,001,316
未払利息	16
その他未払費用	180,757
(C) 純資産総額(A-B)	302,785
元本	214,011
償還差益金	88,774
(D) 受益権総口数	214,011口
1万口当たり償還価額(C/D)	14,148円10銭

(注) 期首元本額	2,499,689,526円
期中追加設定元本額	58,044,143円
期中一部解約元本額	2,557,519,658円
1口当たり純資産額	1.414810円

○損益の状況 (2022年6月16日～2022年11月11日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 499
支払利息	△ 499
(B) 有価証券売買損益	3,258,168
売買益	4,146,549
売買損	△ 888,381
(C) 信託報酬等	△3,182,073
(D) 当期損益金(A+B+C)	75,596
(E) 前期繰越損益金	△ 15,493
(F) 追加信託差損益金	28,671
(配当等相当額)	(24,746)
(売買損益相当額)	(3,925)
償還差益金(D+E+F)	88,774

(注1) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

○投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2018年9月26日		投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2022年11月11日		資産総額	3,484,874円
区 分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	3,182,089円
				純資産総額	302,785円
受益権口数	1,000,000口	214,011口	△785,989口	受益権口数	214,011口
元本額	1,000,000円	214,011円	△785,989円	1万口当たり償還金	14,148円10銭
毎計算期末の状況					
計 算 期	元 本 額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金	
				金 額	分 配 率
第1期	986,071,999円	1,010,691,267円	10,250円	0円	0%
第2期	1,433,628,350	1,560,981,955	10,888	0	0
第3期	1,490,330,565	1,758,750,686	11,801	0	0
第4期	2,499,689,526	2,560,127,243	10,242	0	0

○償還金のお知らせ

1万口当たり償還金(税込み)	14,148円10銭
----------------	------------